

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第27週 (7/3-7/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		27週	26週	25週	24週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	7/3-7/9	6/26-7/2	6/19-6/25	6/12-6/18	6/26-7/2
			27週	26週	25週	24週	26週
小児科	RSウイルス感染症		1	1	1	1	27
	咽頭結膜熱	○	15	14	14	7	150
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		63	49	71	55	507
	感染性胃腸炎		102	108	108	117	697
	水痘		5	11	13	10	76
	手足口病	◎★★★	134	80	37	21	220
	伝染性紅斑		0	0	0	0	3
	突発性発しん		15	13	12	14	75
	百日咳		0	0	0	0	3
	ヘルパンギーナ	○	85	33	29	21	122
	流行性耳下腺炎		1	5	3	5	54
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	4	2	7	28
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		6	6	10	1	42
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		1	1	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	女性	40歳代	病原体の検出
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	女性	50歳代	IGRA検査				
結核	女性	70歳代	IGRA検査等	-	-	-	-

・第27週は、結核4件(116)、アメーバ赤痢1件(2)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(10)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

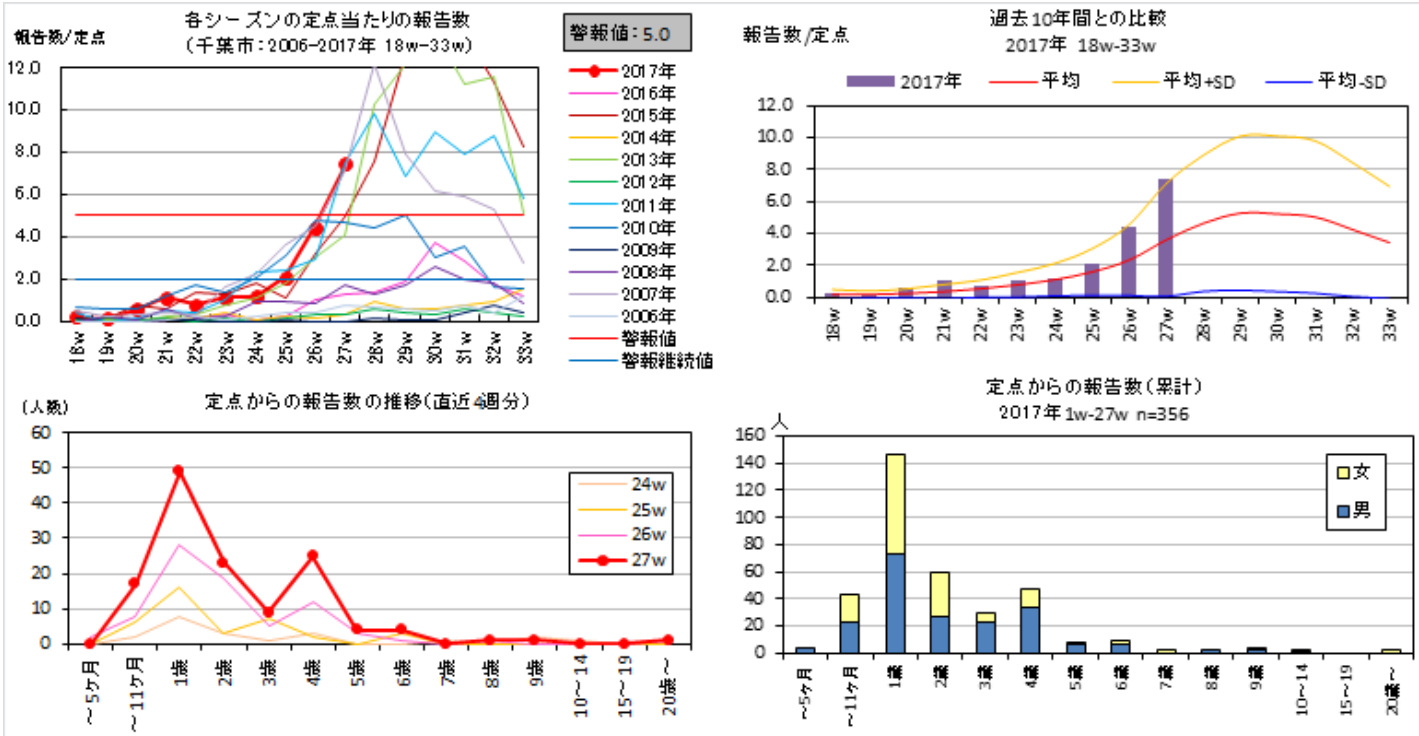
定点当たり報告数 第27週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し、0.83となった。過去10年の同時期と比べると最多。
 <手足口病> 前週より増加し7.44となり、流行発生警報会基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。
 <ヘルパンギーナ> 前週より増加し4.72となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

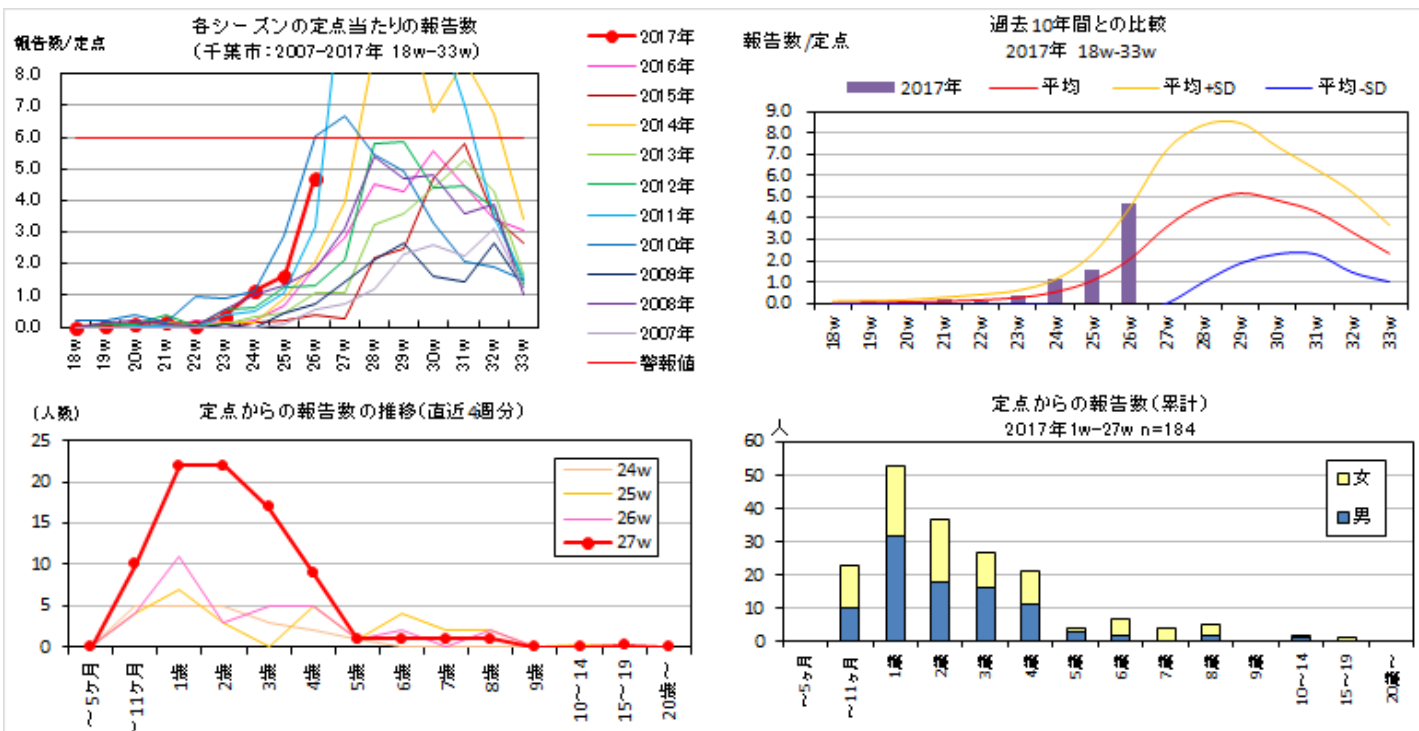
＜手足口病＞

全国レベルの第26週は、過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、高知県、鳥取県、滋賀県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第27週は前週より更に増加し7.44となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(12.00/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。他に緑区(9.5/定点)及び美浜区(7.7/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第27週までの累積報告数(n=356)によると、性別では男性が55.1%(196名)、女性が44.9%(160名)で、年齢階級別では1歳(41.0%:146名)、2歳(16.6%:59名)、4歳(13.2%:47名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの2017年第26週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では福岡県、鳥取県、高知県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同じとなっています。千葉市の2017年第27週は前週から増加し4.72となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区(10.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。他に緑区(7.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第27週までの累積報告数(n=184)によると、性別では男性が51.6%(95名)、女性が48.4%(89名)で、年齢階級別では1歳(28.8%:53名)、2歳(20.1%:37名)、3歳(14.7%:27名)の順に多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの2017年第26週は過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では北海道、鹿児島県、山梨県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第27週は前週より増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(2.0/定点)で最も多く、同区の1歳、4歳及び5歳で多く発生報告がありました。2017年第1週から第27週までの累積報告数(n=117)によると、性別では男性が67.5%(79名)、女性が32.5%(38名)で、年齢階級別では1歳(30.8%:36名)、4歳(13.7%:16名)、3歳(12.8%:15名)の順に多くなっています。

